

その福岡市が、なぜ
水素に取り組むのか？

福岡市からみた水素社会の意義

クリーンエネルギー

- ・ 化石燃料の代替によるCO₂増加の抑制

新しい産業の創出

- ・ 関連産業の振興 (製造・輸送・貯蔵・利用と裾野が広い)

災害に強いまちづくり

- ・ FCVは外部への電源供給が可能
- ・ 災害時等において、移動電源車としての活用も期待

福岡市の優位性①

世界トップクラスの水素研究拠点である九州大学



水素材料先端科学研究センター
(HYDROGENIUS)

新エネルギー・産業技術創業開発機構
(NEDO) の支援による



次世代燃料電池産学連携研究センター (NEXT-FC)
カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 (I2CNER)

経済産業省
イノベーション拠点立地支援事業

文部科学省
世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)

福岡市の優位性②

「福岡水素エネルギー戦略会議」への参画

- ・産業技術総合研究所水素材料先端科学研究センター (HYDROGENIUS)
- ・九州大学水素エネルギー国際研究センター

- ・国内初 (平成16年度～)
- ・国内最大の産学官推進組織
- ・会員数 765 機関
(平成27年10月1日現在)
企業・大学・研究機関・行政等



水素エネルギー製品試験
研究センター (HyTReC)
(糸島市)

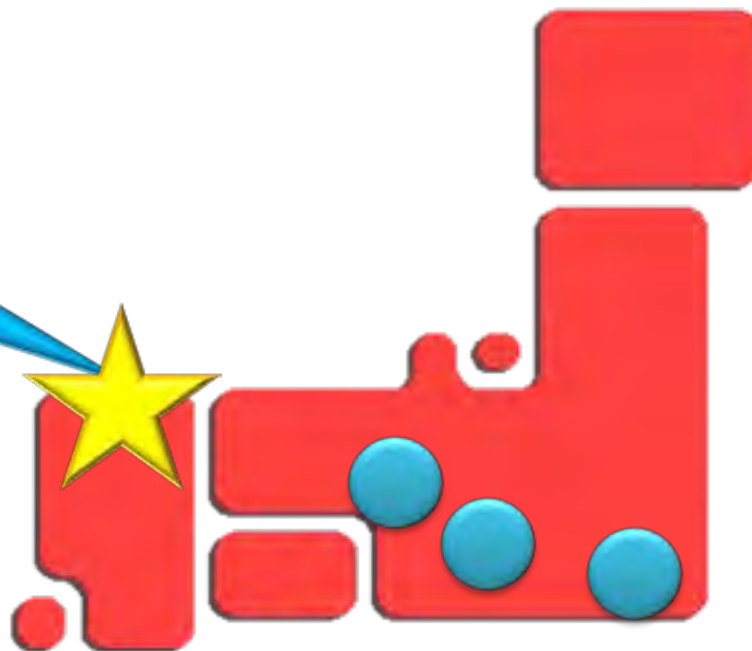
福岡市の優位性③

F C V・ステーション先行配備地域に指定
(4大都市圏の1つ)

平成26年4月11日閣議決定 (エネルギー基本計画)

平成27 年度内に四大都市圏を中心に100 箇所程度の水素供給場所を確保する。

北部九州圏



世界初 下水で車を走らせる

始動！

国土交通省平成26年度下水道革新的技術実証事業
(通称B-DASHプロジェクト)



平成27年3月31日、開所



産学官での共同実証

三菱化工機(株)

研究計画立案
実証設備設計・建設
運転、データ採取

豊田通商(株)

事業性評価

九州大学

下水バイオガス中の
不純物影響調査

福岡市

実証フィールド提供
下水バイオガス提供
実証事業支援



B-DASHプロジェクト採択

◆ 平成23～24年度

- ・九州大学及び三菱化工機(株)が、中部水処理センターにおいて研究。



副市長用車として中園副市長自らPR

◆ 平成25年度

- ・平成26年度国土交通省「下水道革新的技術実証事業 (B-DASHプロジェクト)」に採択

◆ 平成26年度

- ・施設建設 ⇒平成27年3月31日 開所

◆ 平成27年度

- ・福岡市公用車 (FCV2台) への水素充填開始
- ・年内には一般のFCVへも水素充填開始予定
- ・設備の性能評価、ガイドラインの作成

◆ 平成28年度

- ・商用の水素ステーションと同様の運営予定

都心部に近い！！



福岡市西方を望む

大濠公園

福岡ヤフオク!ドーム

下水バイオガス
水素ステーション



福岡市役所

PHOTO : Fumio Hashimoto